

福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞
TBSラジオ『メイ』のいきいきモーニング 取材紹介施設
グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
350・0019 埼玉県川越市木野目一八七八番地一
特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局
☎049・230・1111 (FAX)230・1112

ご家族の声

必死に生きてきた姉 今穏やかな人生が

大正十二年十月、父二七歳、母二三歳の時、私と二歳違いの姉は四番目の子として、長野県南佐久郡の片田舎に生まれました。(以後、生まれた子供は六人で私は末っ子) 姉の小学生の頃、日常に不満を持つ父の悪い酒で、家屋敷を失ってしまいます。この頃の、かぼちゃばかり食べ肌が黄色くなった話や、学校に弁当を持って行けず、誰もいない所でひもじさに耐えていた「貧乏話」は、身につまされて聞いたものです。家では母や弱い兄弟を守り父を説き伏せた話など、「悪者の父」の話は、父に焦がれる私(三歳八ヶ月の時父死亡)には悲しい事実でした。小学校六年が終わると同時に、姉は「奉公」に出ることになります。苦勞を重ね、十七、八歳の時には家族を東京に呼び寄せたと聞きます。正義感が強くて姉御肌…。苦勞から学んでは「人生哲学論」にしてしまう姉。ひとりで必死に生きて証しです。納得しながら生きてきた姉の今を、どうかこれからも宜しくお願いいたします。(稲田 八千代)

訪問マッサージの声

「元気」をお届けしたいと

訪問マッサージ『元気』代表取締役 石田 憲重
当園に携わり、四年が経過しました。今でもはつきりと当初の園の印象を覚えていますが、とてもアットホームな雰囲気、職員の方々の温かさ、入居者の皆様の穏やかな表情は非常に印象的でした。今でも当初に感じた園の印象に全く変わりはありません。現在私の仕事は、入居者様のお体の様々な訴えに対してマッサージやリハビリを行っております。お体だけではなく心のケアも意識し、楽しいひと時になるよう努めて行っております。「元気」をお届けするのが私の務めだと思っておりますが、入居者様の明るい笑顔に私自身が元気を頂いているように思います。これからも施術を通して益々皆様喜んで頂きますよう貢献したいです。
重度化指針に対応して・事業理念説明

五年間に三人を看取り終えて

グループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳
だれにでも訪れる死を上手に受け入れることがターミナルケアです。終わりよければすべていいわけで、最期にいい形を見ようと努力すれば、関わりの一部始終を上つ面言葉ではなく、現実のご遺体として見せてくれる、これが「遺体はケアの通信簿」と言われる所以です。「いつか必ずその時が来ること、そしてその時が近づいたら、悔いが残らない逝き方を一緒に考える準備を、さらに逝き方や場所はその時にご本人様やご家族様がお選びいただくこと」が重度化指針の骨子です。K.Sさん通夜で、看取った職員に「こんな穏やかな顔を見たのは初めてだ。きつと居心地の良い所で過ごせたからに違いない。」とお声を掛けていただいた。

お便り紹介

家族の願いを聞いていたのだって、

皆様お元気でお過ごしでしょうか。昨日、母M.Kの四十九日法要を済ませ、納骨も終わりましたので、報告方々お礼を申し上げたくペンを取りました。母在園中は大変お世話になり、また私達家族の願いを聞いていただき、母がホームでの最期を迎えられた事は感謝の念にたえません。ホーム長はじめ、職員の皆様、ホームドクターのおかげと深く感謝しております。(中略) 母が入所したばかりの頃、私は母に対する後ろめたさに悩まされ、帰りたいと言われる度に心が痛みましたが、今にして思えば、ホームに居たからこそあの穏やかな最期を迎えられたのだと感謝の気持ちでいっぱいです。今までは「母に会いにいかなくては…」と時々しんどい時もありましたが、それもまた思い出の一つとして残っております。私達家族は母に会いたいと思う心と職員の皆様に会える楽しさで四年半のホーム通いをして参りました。これからも今まで同様、入居者にもそして家族にも良いホームである事を願っています。そして、長い間、ホーム便りはじめ、色々ご配慮いただきました事に対し、深く御礼申し上げます。
「ありがとうございます」 乱筆乱文にて。
平成二十二年七月一日 K.Y



来訪歓迎

福原地区民生・児童委員協議会様 (川越市)
株日本医療企画『介護ヒジヨン』編集部様 (千代田区)
御礼 梨 藤野 清美様 (東松山市)